

第9回中国鄭州国際少林武術大会国際の部
A組少林拳の部(12歳未満)で第3位に入賞

腹赤小学校3年

西原 隆樹くん

(上沖洲区)



▲大会の賞状とメダルを手にする西原くん

日々、鍛練あるのみ。

中国河南省鄭州市で10月21日から5日間の日程で行われた「第9回中国鄭州少林武術大会」。2年に1度行われるこの祭典に日本からも数多くの人が参加した。その中の一人が西原隆樹くんだ。

西原くんが参加した種目は「套路(とうろ)」と呼ばれるものの。連続的な攻撃や防御方法、立ち方、歩き方などを総合的に盛り込んだ、日本武術でいう「型」に近い競技だ。本大会には世界から73の国や地域が参加。西原くんはその中の国際の部A組少林拳の部(12歳未満)で第3位に輝いた。「いろんな国の人と出会って楽しみながら試合ができました」。

西原くんが少林武術と出会ったのは小学校1年生のとき。少林武術の合宿を紹介され参加したのがきっかけだった。「何となく楽しそうだなと思いましたが」と当時を振り返る。すぐに少林武術の持つ独特の動きやスピードに魅力を感じ

虜になった。その後メキメキと頭角を現し、数々の大会で入賞。本大会も熊本で行われた少林寺武術大会小学生套路の部で最優秀賞を受賞したことから、日本少林寺武術館館長から参加推薦を受けての出場だった。

「最初は行きたくありませんでした」と話す西原くん。知らない土地、海外での試合などの不安から辞退を考えたこともあったという。しかし、両親の「いいチャンスだから行っておいで。順位なんか関係ない。頑張って帰ってきたらそれだけで十分だから」という言葉や協力で出場を決意。同種目3位という結果は両親への最高のプレゼントになった。

「少林武術は楽しいです。ずっとずっと続けていきたいです」と話す西原くんにとって、少林武術の原点は「楽しむ」こと。これからもきつと楽しみながらその真髄を究めていくことだろう。